



SAVE the BLUEプロジェクトについて

沖縄には世界的に見ても価値の高いサンゴ礁があると言われていますが、近年、さまざまな不安を抱えています。

地球温暖化による海面温度上昇や環境汚染などにより、2100年には地球上のすべてのサンゴ礁が死滅している可能性が高いと予想されています。(※1)

薬ビンをイメージした美しい瑠璃色の雪肌精ブルーという色が象徴になっている雪肌精。

和漢植物という地球の自然の恵みが配合されている雪肌精。青い地球を守るために、海の生物の約9万種が暮らすサンゴ礁を未来に向けて守る事が、自然への恩返しになると思い、SAVE the BLUE活動に参加することを決めました。

15年の間には白化しにくいスーパーサンゴの誕生という奇跡も起こり、沖縄の海では新たなサンゴの生命が誕生し続けています。



サンゴの植え付け・放流活動のプロセス

サンゴを植え付け・放流していくと、その場所へ行くたびに驚きと感動があります。

サンゴが増えてくると目に見えて魚が増えていきます。現在、世界中のサンゴ礁の面積は地球表面の0.1%ほどですが、そこには約9万種もの海の生物が暮らしており、彼らにとってかけがえのないものです(※2)。魚種以外の生物まで考えると、サンゴ礁は小宇宙とも呼べるのです。

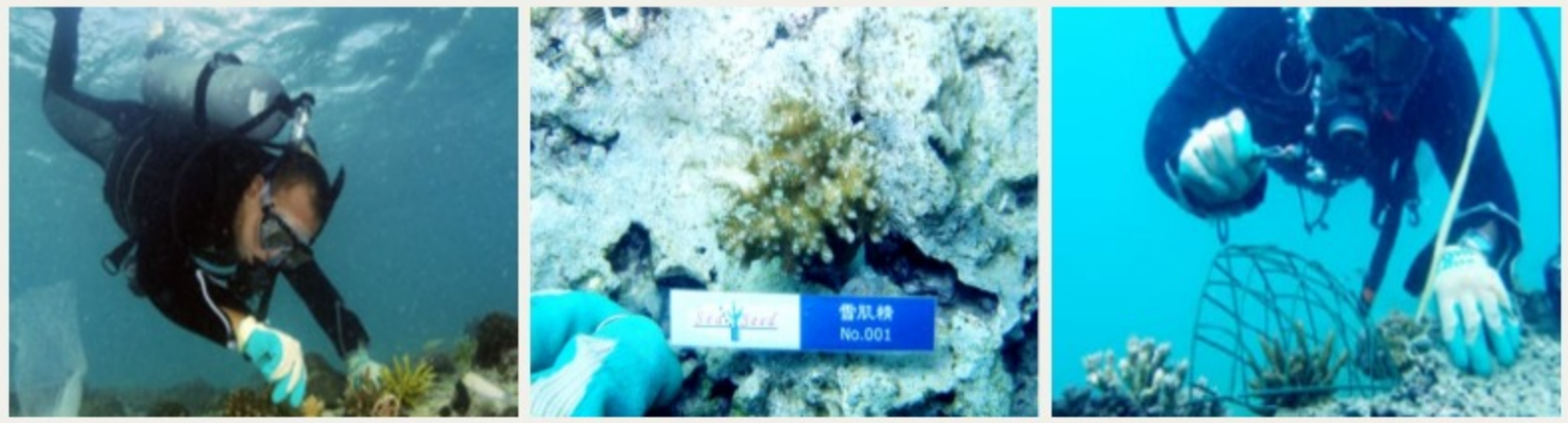
サンゴはたとえ死んでしまっても、砂利になって砂浜を形成し、海をきれいにしてくれるバクテリアたちの住処として、また小動物の住処としても海にとって生態系の源といえるでしょう。

Process 1

サンゴの植え付け

最初は外敵に食べられてしまうのを防ぐために籠をかぶせます。

籠の網目を小さくしすぎると光が少なくなり、サンゴの成長が悪くなってしまいます。そのため、網目の隙間から入ってしまう貝たちをピンセットで一つ一つ取り除く作業行っています。



植え付け作業をする金城さん

記念すべき一本目

サンゴを保護する網をかぶせています。

サンゴの移植は、その地域のサンゴをその地域に植えるという考え方が基本です。というのも、沖縄本島のサンゴと石垣島のサンゴでも遺伝的に違うという場合があるようで、別の地域のサンゴを入れると遺伝子攪乱の可能性があることから、沖縄本島産のサンゴを種親に養殖したサンゴを移植しています。

法的にも許可を取らないといけな場所があります。特定記念公園内や港湾区域などがそうです。また、漁業者の漁を盛んに行う場所などもお仕事の邪魔になるので、その都度漁協に同意を得ています。港湾区域にかかる場合は保安庁に作業許可を申請し、許可を得ています。

Process 2

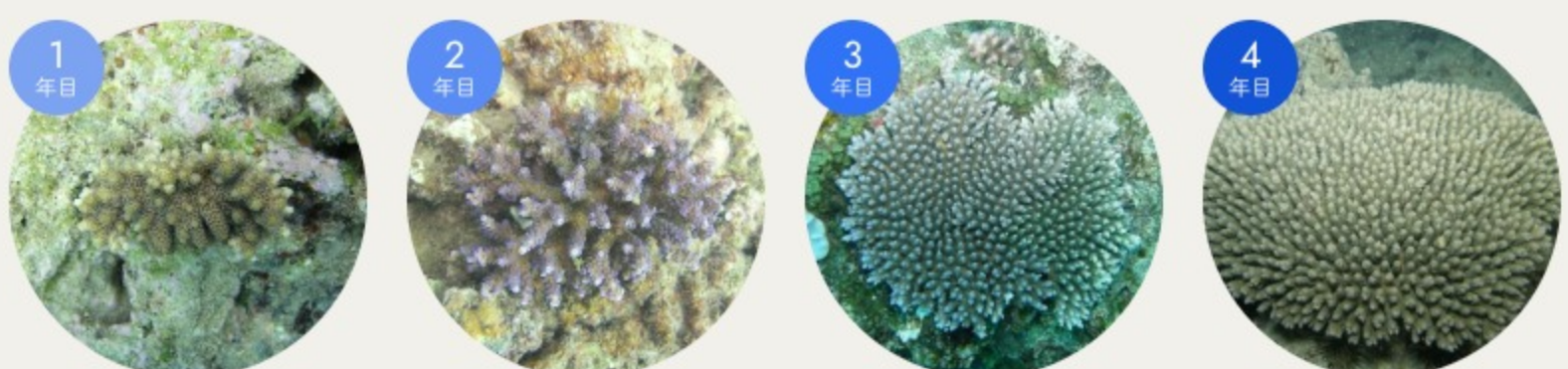
サンゴの成長

移植したサンゴは、沖縄の自然環境の中で長い時間をかけて成長していきます。

サンゴの植え付けは自然相手の取り組みになるので、高海水温や台風、天敵の被害に遭うなど、チャレンジングなことばかりです。

すごく良い環境であれば9割以上のサンゴが育ってくれますが、劣悪な環境下だと、過去には生存率が1割ほどだった場合もあります。

サンゴの移植はまだ、確立されておらず、たくさんのご協力が必要な状況です。ただ、無事育って2年目を迎えたサンゴ達は、産卵してくれます。



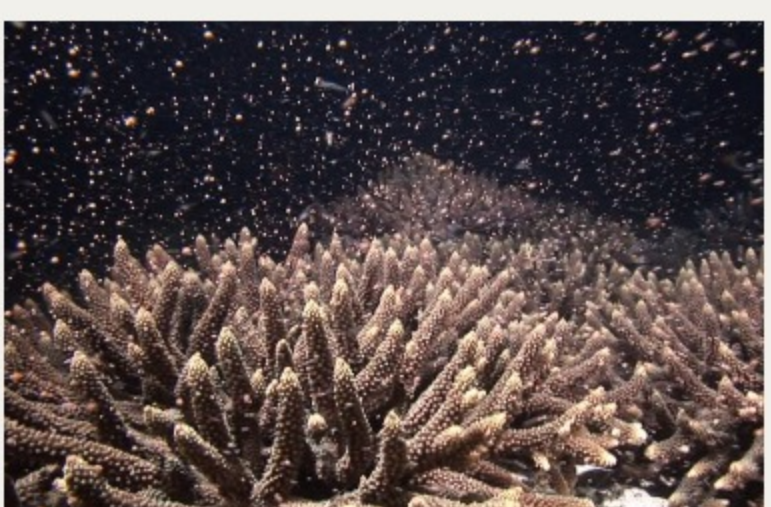
4年ほど経つとサンゴは70cm程の大きさになるものもいます。サンゴはそれぞれ大きく成長し続け、“サンゴの森”も広がってきています。その結果、たくさんの魚も集まってきてくれました。



Process 3

サンゴの産卵

さまざまな試練を乗り越えたサンゴ達は植え付けから2度目の春を迎えた頃（5月～6月）に産卵してくれます。生まれたサンゴの卵は潮の流れにのって海の中へ広がっていきます。



※1 参照：松村 信仁."サンゴが消滅危機 DICが環境ベンチャーと保護技術開発へ「老化」抑制に期待". 産経新聞.2022/7/8

※2 参照：環境省（2022）サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030



雪肌精 SAVE the BLUEでは、養殖サンゴの移植・放流活動をしている「SeaSeed」様にご協力いただいて活動をしています。